White Pleurotus cornucopiae

白色型タモギタケについて

山下光

北海道で見つけた白いタモギタケ

2014/12/16

2014.9.13, 札幌市円山で白いタモギタケを発見。ただの白いタモギタケなのか？全く別種なのか。これは,研究結果などを詳しく説明したものである。

目次

概要……2
特徴/候補種……3～4
世界のタモギタケ,日本のタモギタケ……5
タモギタケの仲間以外での候補種……5
発生状況……6
シロタモギタケ=シロノタモギタケモドキの可能性……6
タモギタケとシロノタモギタケモドキの関係……6
シロノタモギタケモドキについて……7
タモギタケ周辺のきのこ(変種,亜種) ……8

・本書に掲載する学名/分類は，「日本産きのこ目録 2015」を参照し，もしそれに載っていなかった場合は Mycobank を参照する。

・第三者が提供した写真は，許可をとって掲載している。

参考文献などは最後に記す。

研究期間:2014.12.01～.16

概要

2014.09.13 に北海道札幌市中央区円山原始林でタモギタケと思われる個体を発見したが，このきのこはほとんど真っ白で，とても悩んだきのこである。これは，白いこと以外，ほとんどタモギタケの特徴と一致しており，その時は「白色型タモギタケ」と名前をつけていたのだが，本当にそうなのだろうか，と思った末，本格的に研究を始めることとなったのである。そのきっかけは，ある日「シロタモギタケ」なるきのこの存在を知ったからである(後にこのきのこは分類からして違うと分かったのだが)。タモギタケの仲間は，ほとんど知られておらず，興味深いので，なんとかこのきのこの名前を突き止めたいと思った。だが，写真も少なく，これだけで同定するのは困難だと思われた。

特徴・候補種

写真は前のページに示したとおりである。ここでは，外見的な特徴と，似ているきのこなどを詳しく説明する。

採取地:北海道札幌市中央区円山。標高 225m で，天然記念物に指定されている。ここに行くといつも黄色いタモギタケが発生していて，食したこともある。

採取日:2014.09.13(9 月中旬)。本種を発見したのが 13:10 ほど。

形態:見つけたときはとても新鮮で，透明感が強かった。色はカサ，ヒダ，柄ともにほとんど純白だが，クリーム色を帯びている個体もあった。カサは径 1cm～4cm，中央は少しくぼみ，褐色がかる。ヒダは密～疎，垂生だが，明確にはならない。柄は中心性で，基部は互いに合着する。広葉樹切り株に発生。タモギタケの様ないわゆる“きのこ臭”がとても強く，近くを通っただけでも匂いがする。弾力が強く，もろくはない。タモギタケに酷似する。

候補種1: Pleurotus cornucopiae (Paulet) Rolland
おそらくこれが一番近いのだが，何より詳細な記載がないので不確定。唯一載っている図鑑(新版北海道きのこ図鑑)の写真を見ると，柄が偏心生～側生になっているのが分かる。しかしそのことについてはなんの記載もされておらず，本種は柄が中心性なので，外国の文献や論文・タイプ標本を見てみないと分からない。和名は，この図鑑では「シロノタモギタケモドキ」となっており，「きのこの名優たち(本郷次雄 監修)」という本では「オウシュウタモギタケ」と記載されている。和名も定かではないが，ここでは「シロタモギタケモドキ」という名前を採用したい。

候補種2:P.cornucopiae (Paulet) Rolland var. citrinopileatus (Singer) Ohira → Pleurotus citrinopileatus Sing.(シノニムは Pleurotus citrinopileatus)
いわゆる“タモギタケ”である。あまりにも酷似しているので，タモギタケの白色型ではないかとの考えもある。しかし，これほど白いのはかつて見たことがない。実は，採取地(円山)に行くたびに毎回本種のタモギタケが発生していた。しかし，それらは小さく，また散生していたので，やはり同種とは考えにくい。やはり別種と考えるべきであろう。

次のページに続く

候補種 3:Pleurotellus porrigens (Pers. ex Fr.)
和名なしのきのこ。ほとんど情報を得られず，詳細な記載はあまりないのだが，一応載せておく。Pleurotellus という，何の属なのか，どの科に属するのか，全く不明。調べる限りではラッシタケの類だとの情報もあるが，本当なのかは分からない。タモギタケとは無関係の，全く別の種類なのか。柄がないので，あまり可能性はないと見られる。唯一の説明は次のとおり。

location: North America, Europe
edibility: Inedible
fungus colour: White to cream
normal size: 5-15cm
cap type: Other
stem type: Lateral, rudimentary or absent
spore colour: White, cream or yellowish
habitat: Grows on wood
Pleurotellus porrigens (Pers. ex Fr.) K□n. & Romagn. syn. Pleurocybella porrigens (Pers. ex Fr.) Singer syn. Pleurotus porrigens (Pers. ex Fr.) Kummer Ohrf・miger Seitling Angel Wings. Cap 210cm across, white, sessile, tongue-shaped, the margin becoming wavy and lobed with age, but fruit bodies often much distorted by mutual pressure. Flesh white. Gills ivory white. Spores subglobose, 56m. Habitat rotting wood, frequently on partly buried moss-covered branches forming dense clusters. Season autumn. In Britain restricted to coniferous woodland in the Scottish highlands. Poisonous. In the past this has been thought of as an edible species, but there have been reported a number of fatalities from Japan. Distribution, America and Europe.

候補種 4:Pleurotus pulmonarius (Fr.)
ヒラタケ属の白いきのこ。どちらかというとタモギタケではなくてヒラタケに近いと見られる。柄がなく，生え方が特徴的。ただ，タモギタケのように柄ができることもあるようなので，一応このきのこも入れておく。材上生だが，土から生えることもあるようである。

候補種 5:Pleurotus lignatilis (Pers. ex Fr.)
最後に，一番可能性の高い種類を紹介する。タモギタケにだいぶ近く，白色。株になって生え，比較的大型。材上生で，肉の基部は褐色がかる。

———以上のことをふまえて，分かった経緯と，研究結果を記す。

世界のタモギタケ，日本のタモギタケ

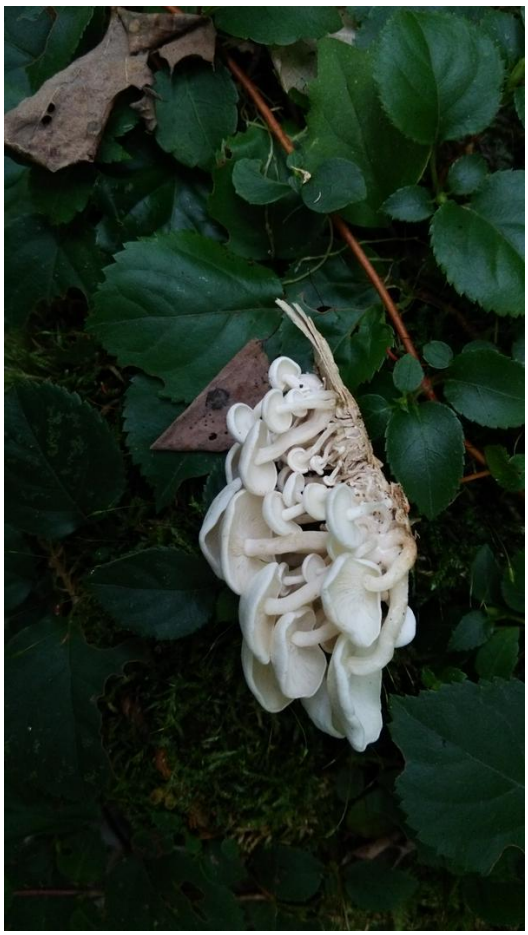
世界レベルで考えるとヒラタケ属だけで約 610 種類あると考えている。
日本では，現在 10 種類ほどしか見つかっていない。
比率としては 10 分の 2 ほどがタモギタケの仲間だと考えられるが，明確ではない。

しかし，実際にはかなりたくさんの種類があると思われる。

タモギタケの仲間以外での候補種

1:ブナノシラユキタケ Clitocybe sp.(キシメジ科ハイイロシメジ属)　東北きのこ図鑑

2:オシロイシメジ Clitocybe connata(キシメジ科ハイイロシメジ属)
　　(地上性であるため違う)
3:ヌメリツバタケモドキ Mucidula venosolamellata(タマバリタケ科ヌメリツバタケ属)
　　(ツバがないため違う)
•このことから言えることは，やはりタモギタケの仲間と考えるべきであろう。
しかし，ブナノシラユキタケは非常に似ており，この種類も候補種として入れておくべきである。
以下，ブナノシラユキタケの写真を添付する。



写真提供:Q.Fungi.Q さん 2014/9/7 奥入瀬渓流にて

発生状況

•白色型タモギタケと思われるきのこ(詳細は不明)　北海道上富良野町付近(?)　1件
•ブナノシラユキタケ　青森県奥入瀬渓流　1件
•ヒメシロタモギタケ　青森県　3件
•シロタモギタケ　大分県　1件

シロタモギタケ=シロノタモギタケモドキの可能性

「原色北海道きのこ図鑑」には「シロタモギタケ」が載っている。
先ほども記したが，「シロノタモギタケモドキ」は**「新版北海道きのこ図鑑」**に載っている。
原色北海道きのこ図鑑を改訂したものが新版北海道きのこ図鑑かは分からないが，もしそうだとしたら，シロタモギタケがシロノタモギタケモドキだったということになり得る。
しかし，記載を見る限り，この考えは間違っていると見られる。

(情報提供: 加藤慶一さん)

ただし，実際にはシロタモギタケとされているものには多数シロノタモギタケモドキが混在していると考えている。そのため，シロタモギタケとされているものもよく調べると実は違うものの可能性もあり，そういったことから**タモギタケには数種類ある**と考えている。

タモギタケとシロノタモギタケモドキの関係

- タモギタケとシロノタモギタケモドキは非常に類似しており，
  研究者によっては**タモギタケはシロノタモギタケモドキの変種**だと考えている。
- 実際に学名ではそうなっている→
  シロノタモギタケモドキ P. cornucopiae
  タモギタケ P. cornucopiae **var.citrinopileatus**（シノニム: P. var.citrinopileatus）
- Citrinopileatus は「黄色い」という意味:タモギタケの学名の意味は「黄色いタモギタケ」
- 普通のタモギタケ(海外のタモギタケ？)は白いのか？

シロノタモギタケモドキについて

シロノタモギタケモドキは，日本菌類集覧にものっていない。
唯一載っている日本の図鑑は★**新版北海道きのこ図鑑** 172 ページ
新版北海道きのこ図鑑 172 ページ増補版の記載には

生態:7 月中旬～8 月上旬頃。イタヤ類の立枯木に発生。
形態：タモギタケに酷似し，相違点は以下の通り。かさの表面の色は白色～クリーム色で，中心部は幾分褐色を呈することもある。柄はかさと同色。肉は穀粉臭で，タモギタケよりやや劣る。胞子紋は白色，後に色あせ淡い紫灰色。胞子は無色透明で，円柱状楕円形，7～11×3.5～5μm，通常 9×4μmでタモギタケのそれよりやや大きい。
分布：北海道，欧州，北米。
食毒：食。
料理：タモギタケと同じ。

採ったのは 9 月 13 日

真っ白だった

とても匂いが強かった

採取地は北海道

とある。
だいぶ特徴が一致しているのだが，肝心な「柄が偏心生か」については何の記載もされていないため，さらなる検討が必要である。
「**原色•原寸世界きのこ大図鑑**」に載っているらしいのだが，19440 円と高く，
身近に持っている人がいないため，確かめることは困難である。
しかし，国立国会図書館に置いてあるようで，近いうちに訪問することも考えている。
他の文献には一切ないようだ。
やはり必要となるのは海外の文献や論文だが，手に入ることが少ない。

タモギタケ周辺のきのこ(変種,亜種…)

Pleurotus cornucopiae var.citrinopileatus(本種のタモギタケ)

Pleurotus cornucopiae(シロノタモギタケモドキ=オウシュウタモギタケ(仮))

Pleurotus cornucopiae subsp.citrinopileatus(タモギタケの亜種？)

Pleurotus cornucopiae subsp.cornucopiae(タモギタケの亜種？)

Pleurotus cornucopiae var.cornucopiae(？)

上のうち 3 種類は，情報が全くなく，手がかりがつかめないままでいる。

参考文献:東北きのこ図鑑，新版北海道のきのこ図鑑，新版北陸のきのこ図鑑，原色日本新菌類図鑑，きのこの名優たち，日本のきのこ，他

シロノタモギタケモドキ（新称）

●ヒラタケ科

Pleurotus cornucopiae

生態：7月中旬～8月上旬頃、イタヤ類の立枯木に発生。

形態：タモギタケ（p.148）に酷似し、相違点は以下の通り。かさの表面の色は白色～クリーム色で、中心部は幾分褐色を呈することもある。柄はかさと同色。肉は穀粉臭で、タモギタケよりやや劣る。胞子紋は白色、後に色あせ淡い紫灰色。胞子は無色透明で、円柱状楕円形、7～11×3.5～5 μm、通常9×4 μm でタモギタケのそれよりやや大きい。

分布：北海道、欧州、北米。

食毒：食。

料理：タモギタケと同じ。